



北にくらす子どもたち

文化人類学者による写真展



ユーラシアと北米大陸の極北地域には、近代国家による国境が引かれる以前から、多くの先住民と呼ばれる人々が暮らしてきました。北極圏の狩猟民イヌイト、シベリアのタイガでトナカイを飼うエヴェンキなどと呼ばれる民族の名前を聞いたことはありませんか。



この展示では、北方地域を研究する文化人類学者達が、フィールドワークのなかで撮影した民俗写真のうち、とりわけ子どもの写真を集めて紹介するものです。厳しくも美しい自然環境や伝統的文化から、現代の子どもめぐる環境までさまざまな側面の日常が写されています。

数々の写真を通して、北方地域の民族的世界の今日的状況に関心をもっていただければと思います。またこの子どもたちの笑顔が続くよう、次代に何を伝えていけばよいのか、思いをめぐらせていただける契機となれば幸いです。



この展示は、北海道立北方民族博物館の開館 20 周年に合わせて企画されたものです。博物館関係者の御好意により東北大学附属図書館での巡回展が実現することになりました。網走市にある北方民族博物館は、ユーラシアと北米双方からなる環極北地域の諸民族の歴史と文化に焦点をあてたユニークな博物館です。北方民族博物館と東北大学東北アジア研究センターは研究協定を結び、さまざまな相互協力を行っています。今回の展示はその一環として行われるものです。



シベリアにおける人類生態と社会技術の相互作用研究ユニット（略称、シベリア人類生態ユニット）

東北アジア研究センターのプロジェクト研究部門の一つで、2009年～2013年度で実施されている。シベリアおよび北方圏の地域研究を文化人類学を中心に、土木計画学などとの理系分野との連携のもとにすすめている。